

ロックドリル部門：ブラストホールドリルの整備サービス事業を強化 ～北関東地区の整備サービス事業の伸長と人材育成の場～

当社（社長：中戸川 稔）グループの中核事業会社で、ロックドリル部門を担う古河ロックドリル株式会社（東京都千代田区、社長：山口 正己）は、当社が2023年7月に設立したFRD北関東株式会社（栃木県小山市、社長：神宮 彰）において、北関東地区でのブラストホールドリルの整備サービス事業の伸長とメカニック人材の育成を強化するため、10月1日より整備サービス事業を開始しました。



FRD 北関東株式会社



油圧クローラドリル（砕石場）

背景と目的

古河ロックドリルは、整備サービス事業として、いわき整備工場（福島県いわき市）と関西整備工場（大阪府西淀川区）にて、主要製品である油圧ブレーカとトンネルドリルジャンボの整備を行っていますが、ブラストホールドリル※の整備工場は自社で有しておらず、全国各地の指定サービス工場にて整備を行ってきました。

栃木・茨城県を中心とした北関東地区では、砕石場が多く、ブラストホールドリルの主要製品でもある油圧クローラドリルが相当数稼働しており、整備サービスを適宜行っていくことが重要になります。これまで指定サービス工場にて行っていた同地区の整備サービス事業を、今後、当社のグループ会社であるFRD北関東が行うことで、同地区での整備サービス事業の伸長を図るとともに、ロックドリル部門内におけるブラストホールドリル整備技術者の育成の場としての役割も果たしていきます。

具体的には、FRD北関東にてブラストホールドリルの整備技術を有するメカニック人材の育成や新入社員のOJT教育を行う構想で、ロックドリル部門内の整備サービス力をより強化し、お客さまへの高品質な整備サービスの提供、更にはカスタマーサクセスの実現につなげていきます。

古河ロックドリルは、お客さまの要望に行き届いた対応をするため、今後も人材育成とライフサイクルサポートビジネスの強化に努めてまいります。

※ ブラストホールドリル：発破用の孔をせん孔する機械で、鉱山・砕石・土木工事等の比較的大規模な発破に使われます。当社では、地表にて使用されるクローラドリル、ダウンザホールドリル、ロータドリルの総称としてブラストホールドリルと呼んでいます。

会社名	FRD 北関東株式会社
所在地	栃木県小山市横倉 623-1
代表取締役社長	神宮 彰
設立	2023年7月10日
大株主および持株比率	古河機械金属株式会社 100%

油圧クローラドリルとは

発破用の火薬を装填するため下向きにせん孔する（岩盤に孔（あな）を開ける）自走式機械です。鉱山や砕石場等の露天掘り掘削現場では油圧クローラドリルでせん孔し、岩盤を発破することにより石を採取します。国内外の現場で活躍しており、インフラ開発を支える原材料となる砕石や石灰石、金・銀等の非鉄金属鉱山、鉄鉱石鉱山等の鉱石採掘に貢献しています。せん孔する孔の大きさにより火薬量が変わり、発破後の石の生産量が増減します。油圧クローラドリルは、せん孔する孔の大きさによりサイズが異なるため、現場の生産規模に合ったサイズ選定が必要です。

【補足資料】

■会社概要

【古河機械金属株式会社】（東京証券取引所プライム市場 証券コード 5715）

本社所在地：東京都千代田区大手町二丁目6番4号（常盤橋タワー）

代表取締役社長：中戸川 稔

事業内容：鉱山開発で培った技術を受け継ぎ、現在では機械事業3部門（産業機械部門、ロックドリル部門、ユニック部門）と素材事業3部門（金属部門、電子部門、化成品部門）を展開しています。

創業：明治8年（1875年）8月

設立：大正7年（1918年）4月

資本金：282億818万円

従業員数：〈連結〉2,831人 〈単独〉208人 [2023年3月31日現在]

WEBサイト：<https://www.furukawakk.co.jp/>

【古河ロックドリル株式会社】（古河機械金属株式会社100%子会社）

本社所在地：東京都千代田区大手町二丁目6番4号（常盤橋タワー）

代表取締役社長：山口 正己

事業内容：1914年、国産初の手持ち式さく岩機の開発が始まりで、現在はさく岩機のトップメーカーとして、油圧ブレーカ、油圧クローラドリル、トンネルドリルジャンボなど、インフラ整備、鉱山開発に不可欠なさく岩機の製造・販売を行っています。

設立：1961（昭和36）年6月

資本金：4億円

従業員数：505人 [2023年3月31日現在]

WEBサイト：<http://www.furukawarockdrill.co.jp/index.htm>



強みの「ドリフタ」をコアコンピタンスとして共通の旗印に掲げ、キャッチコピー「KEEP THE BEAT!!!」を設定し、強靱な組織を目指しています。